



私達「訪問看護ステーション フレディ」は2020年4月に開業し、早いもので3年になります。コロナとともに始まり、最初から重装備支度でアルコール等を確保しながら、患者さん宅に24時間体制で向かっていました。

「開業のお祝いとこれから頑張るぞーの会」も残念ながら出来ず今に至ります。場所は、ドクターゴン鎌倉診療所様のお隣で、同じグループのタカノ薬局鎌倉店の二階にあります。

訪問看護STとしては広いのですが、サービス担当者会議や勉強会、特に医療機器や薬の勉強会も他の事業所の方にも気軽に立ち寄って頂くことができたより患者さん、鎌倉の医療介護のお役にたてるのではないかと選びました。

こちらからお声をかけさせて頂くかもしれませんが、その時はよろしくお祈りします。

さて、申し遅れましたが、スタッフは看護師5名、作業療法士1名、非常勤で言語聴覚士1名の構成です。看護師だけでなくPT.OT.ST=セラピスト、管理栄養士、もっと多職種で構成したステーションとなって患者さんに重層的に関わって行きたいと思っています。私達のSTの名前は「葉っぱのフレディ」というお話の主人公から頂きました。若葉から紅葉、そしていつか土に還って、新たな生命の誕生を導く葉っぱの生涯を人生に、大きな樹は社会を描いているように思います。私達のステーションが患者さんとスタッフにとって温かい場所でありたいと願っています。



## BCP策定について

BCPとはBusiness Continuity Plan（事業継続計画）の略です。災害などのリスク発生時にも業務の継続ができるように、平時より計画・準備をしておくというもので、東日本大震災以降、企業を中心に広がりました。昨今では災害拠点病院以外の医療施設においても、大地震、津波、洪水、土砂災害、感染症などに伴う災害に対してのBCPの作成が求められており、当院でも独自のBCPの作成に取り組んでいます。

先日利用者様に配布させていただいた「もしもの時のお伺いシート」もその一環です。災害時に患者様・ご家族様がどのような行動をしたいかを事前にうかがい、災害時の混乱を最小限に医療提供を行うことを目的としています。災害時には、地域全体の連携なしに医療提供の継続は困難であり、介護福祉においても同様です。診療所だけでは困難なことも、地域の皆さまと協力をすることで地域全体の医療・ケアの継続につながれると考えております。

鎌倉の地域BCPに寄与できるよう診療所としてできることを今後も検討してまいります。

## 外来予定表

窓口受付時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~11:30	○	○	★	○	○	休	休
14:00~16:30※	×	×	★	○※	×	休	休

★水曜日は予約制となっております。お電話ください。  
※木曜日午後は16時までです。ご了承ください。

診療科:外科・内科・訪問診療  
担当医師については、当院ホームページにてご確認をお願いいたします。  
<http://www.drgon.net/kamakura/>



鶴岡八幡宮で撮影

## 当院からのお知らせ

### ■5月コロナワクチン追加接種開始

5月8日からオミクロン株対応2価ワクチン(モデルナ社製)追加接種が開始する予定です。初回接種(1.2回目接種)を終了した以下の方が対象です。

- ・65歳以上
- ・12~64歳の方で基礎疾患がある方
- ・医療従事者

診察時に順次ご希望をお聞きしております。よろしくお祈りします。

### ■带状疱疹ワクチン

带状疱疹ワクチン、シングリックスを新たに採用しました。

対象年齢は50歳以上の方、2回接種のワクチンです。

1回の金額22000円で、合計44000円です。ご希望の方は診察時、またはお電話にてお問い合わせください。



# コロナと共に笑顔のみえる社会を —これからのコロナ対策について—

今年には4年ぶりに制限のない花見が解禁となり、鎌倉の街にも桜が咲き観光客であふれ賑わいが戻っています。WBCも念願の優勝を果たし、コロナからも解放され、日本全体が活気にあふれ元気をとりもどした感じです。

国の方針により3月13日からマスクの着用は個人の判断となりました。この3年間マスク生活に慣れてきたため、急にマスクのない生活は逆に不安があると思います。実際街にでも、以前とかわらずマスクをつけて歩いている方を多く見かけます。花粉症の方もいますが、個人の判断と言われても戸惑ってしまうのが本音だと思います。

医療機関への受診時や高齢者施設などを訪問するときは、周囲の方に感染を広げないために、マスク着用が推奨されています。当院でも今まで通り外来、訪問診療の際はマスク着用をしています。外来に来られた患者様にもマスク着用を呼びかけています。ただ患者様と直接接しない場面においては個人の判断に任せます。それはコミュニケーションにおいて顔の表情が一番重要な部分であるといわれているからです。ヒトは表情から大部分の情報を得ています。ネットやメールではなく一番大事なコミュニケーションをとりもどす意味でもあるからです。顔を出すのが恥ずかしいと言う子供やマスク社会になってから笑顔をつくれなくなった若者が増えていると聞きます。

お互いの顔がどうだったのか忘れてしまったり、初対面からマスクをつけている人は本当の顔を知らないのではないのでしょうか。こんな顔だったっけ、想像とは違っていた（なんて失礼な！）なんてことも言われそうです。そう、マスクを外せる場面では、なるべく外して自分の顔、とくに笑顔を出していきましょう！！

政府は新型コロナウイルスの感染法の分類を5月8日より2類から5類に引き下げることを決めました。つまり季節性インフルエンザと同じ部類になります。感染者の外出自粛や医療費負担、マスク着用、医療機関への受診などこれまでと対策が大きく変わります。感染動向の把握は定点把握となります。これは決まった医療機関での患者数を週1回国へ報告されます。そのため感染が増えているか減っているかの動向しか分からなくなります。発熱外来もなくなり一般の外来でも季節性インフルエンザと同じように新型コロナウイルスにかかった方が受診してくることもあります。

今後私たちは感染動向の動きによって感染対策も強弱をつけていく必要があると思います。つまり、感染者が増えていけばより感染対策をさらに強化（マスク、手洗い、換気）していくことが必要です。また、日頃から免疫力をつけ体の中から感染に強い体をつくるのが大切です。それには十分な睡眠とバランスのとれた食事、そして適度な運動、これに尽きるのではないのでしょうか。あと一番大切なのは笑顔をつくるトレーニング！鏡を見て笑う練習をしましょう！

コロナと共に生き、みんな笑顔のある社会をとりもどしていきましょう。

ドクターゴン鎌倉診療所 院長 今井 一登



## 在宅医療と消化器病 最終回

その人の瞳は輝いていました。

入院中と同じく多数の点滴がつながって、辛い病気に闘病しているのは変わらないのに、です。これが生まれて初めて、外科医として初めて、自分が手術に立ち会った患者さんを、その方のご自宅で在宅医として見た時の正直な感想でした。「またまたそんなうまい話が・・・」とお思いですよ。私も他人が話すのを聞けば、そのような感想を持つかもしれません。しかし、自分に嘘はつけません。病院に居た頃は自分と病院はセットで、患者さんが来れば、採血、レントゲン、CT等で状態を確認し、外科的なことがあれば手術をし、その後の状態も回診、検査などで確認し・・・の繰り返しをひたすらすることが、患者さん達に最善と信じてやってきていました。しかしながら入院中にその人が、その様な表情をするのを見ることは決してありませんでした。入院中と在宅で両方見る機会を、大学病院から週1回派遣でドクターゴンに来ることにならなければ見ることはなかったでしょう。たまたまその方は私が、初めて当時のドクターゴンの担当医と一緒に往診した際、病院にもいく必要がある状態で、私そのまま翌日大学病院で治療しご自宅へ戻す（そしてこれが2回起きる）というすごい奇跡的なタイミングも経験されました（ほかの方にも言えることですが在宅療養中も様々なことが起きることもあり、入院しなければできない処置などあれば入院の方がいいこともあるのですが）。

この方はその後、ご自宅でご家族や多職種に渡る診療所や他事業所のスタッフさん達、周りの方々のサポートを得つつ、点滴しながらついにはディズニーランドまで行くことができました。一時状態が安定したときは、「留学先だったところに行けますか？」とご相談頂きましたが、病状としては超重症で末期がんでもあり、お若いながらも最期はご自宅でお亡くなりになりました。病院で当時としては最先端のがん疼痛治療が行われているにも関わらず、それを在宅で実施し、それには飽き足らずさらに治療の濃度をあげていく診療所の情熱を間近で見ることができ、私はここで在宅医として生きていくことを決断できました。

「私にもその情熱があるか？」自問自答しながら鎌倉で切磋琢磨する日々が続いていき今日に至ります。当然自宅に居る方が何でも良いわけではないこともあり、その都度病院や施設にお願いすることもあります。患者さんやご家族にとって、最も良い選択は何か悩むことも在宅医の大切な仕事だと考えております。

まだまだ在宅医として至らぬ点が多々あるかと思いますが、これからもどうぞよろしくお願ひ致します。



あまの くにひこ  
天野 久仁彦 医師

医学博士  
日本外科学会 認定医・専門医  
日本消化器病学会 専門医  
日本消化器内視鏡学会 専門医